第二課

戰例ノ内容ハ必スシモ時局ニ
恰適セサルモ參考ノ爲配付ス

昭和七年二月十日

海峽要塞ニ對スル陸海連合作戰ノ指導ニ關スル戰例及觀察

參謀本部第四部

受付
7.2.12
第一部

0748

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

前言

歐洲大戰間英軍ノガリポリ作戰ニ於ケル君府ダーダネルス海峽及海峽要塞相互ノ關係ハ恰モ今次上海事變ニ伴フ皇軍ノ作戰ニ於ケル上海楊子江（黃浦口）及吳淞砲臺相互ノ關係ニ髣髴タルモノアリ特ニ兩者共當初ハ專ラ海軍ノ獨力作戰ニ發端シ次テ是ニ陸軍ヲ參與セシメタル點ニ於テ共通スル所アリ依テ以下一、海軍獨力作戰ヨリ陸海軍連合作戰ヘノ轉移　二、陸軍一部隊ノ海軍協力　三、陸軍ヲ主體トスル陸海連合作戰ノ三時期ニ區分シ主トシテ左記要項ニ就テ一部ノ觀察ヲ試ントス

(一) 連合作戰ニ於ケル陸海中央統帥部ノ協調連絡

(二) 出先陸海軍指揮官ノ情況判斷ノ扞格ト之ニ對スル中央統帥機關ノ處置

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(三)陸海連合作戰ニ於ケル主體ノ確立ト指揮官ノ地位

0750

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一期　海軍獨力作戰ヨリ陸海連合作戰ヘノ轉移

要旨

海軍獨力作戰ヨリ陸海軍連合作戰ニ轉移スヘキ根本方針ヲ決定セルニ拘ハラス陸海軍中央統帥部間ノ協調連絡不十分ナリシ爲海軍側ハ從來ノ隋勢ニ因リ海軍獨自ノ作戰ヲ遂行シ爾後ノ連合作戰ニ重大ナル惡影響ヲ及セリ

一九一四年秋以來英國ハ其地中海艦隊ヲ以テ再三「ダーダネルス」海峽ノ强行通過ヲ企圖セシカ海峽要塞ニ對スル海軍獨力攻擊成功ノ望ヲ失フニ至リシヲ以テ翌一九一五年二月初ニ及ヒ海軍側ハ漸次陸軍ノ協力ナキヲ「ダーダネルス」作戰ハ眞ノ奏功ヲ期待シ難シトノ意見ニ傾キタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

前記海軍側ノ意見ニ基キ二月十六日軍事會議ヲ開催シ大体「ダーダネルス」作戰ノ爲強大ナル陸軍ヲ準備スルコトニ意見ノ一致ヲ見タリ其要旨左ノ如シ

一、速ニ内地ヨリ現ニ出動準備ヲ完了シアル一師團ヲ「マドロス」港（「ダーダネルス」附近ノ「レムノス」島ニ在リ）ニ派遣ス（航海日數九乃至十日）

二、所要ニ應シ埃及守備軍ヨリ一部隊ヲ急派ス

三、右ノ諸部隊ハ要スレハ「ダーダネルス」攻撃ノ艦隊ニ協力ス

而シテ前述ノ如ク作戰方針ノ根本ニ重大ナル一轉換ヲ見タルニ拘ハラス海軍省ニ於テハ從來ノ方針ニ基ク實行計畫ヲ變更スルコトナク陸軍ノ協力ヲ期待シ得ルハ相當日子ノ後ナルヲ了知シツツモ三日後ニ迫レ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ル艦隊獨力攻撃ノ豫定ヲ延期セシムルノ手段ニ出テサリキ、其結果艦隊砲撃ハ徒ラニ我企圖ヲ豫告スルニ過キスシテ後日陸海軍ノ大規模ナル連合作戰カ遂ニ悲慘ナル終末ヲ告クルニ至リシ主因ヲ醸成セリ

英公刊戰史ニハ以上ノ缺陷ヲ明瞭ニ告白シ當局ノ失態ヲ強調シアリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二期 陸軍一部隊ノ海軍協力

要旨

一、海軍獨力攻撃ノ不成功ヲ如實ニ體驗セル結果一部ノ陸軍部隊ヲ以テ艦隊ノ協力ニ任セシメタルモ之ニ對スル任務ノ附與適確ヲ缺キ且陸海軍中央統帥機関ノ協調不徹底ナリシ為出先陸海軍指揮官相互ノ協調圓滑ヲ缺クニ至レリ

前述ノ如クニ月十六日ノ軍事會議ノ決定基キ本國ヨリ有力ナル陸軍部隊ヲ地中海方面ニ派遣スヘキ準備ヲ整フルト共ニ陸軍卿「キッチナー」大將ハ刻下ニ於ケル海軍側ノ要求ニ應セシカ為換及守備軍ヨリ一小部

0754

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

隊ヲ艦隊協力ニ急派スルニ決シ埃及軍司令官「マックスウェル」中將ニ命セリ

此件ニ関シテ陸軍卿カ埃及軍司令官及派遣部隊指揮官（濠西軍團長「バードウッド」中將）ニ送リタル幾多ノ電信ヲ検討スルトキハ陸軍中央統帥部ノ派遣部隊指揮官ニ與ヘタル任務ノ指示頗ル明確ヲ缺クモノアルヲ知ルヘシ以下其主要ナルモノノ要旨ヲ摘記セン

二月二十日　陸軍卿發　埃及軍司令官宛

「艦隊ハ既ニ「ダーダネルス」ニ向ヒ攻撃ヲ開始セリ貴官ハ濠西師團約三萬ヲ「バードウッド」中將ノ指揮ニ屬シ三月九日頃迄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニ乘船準備ヲ整ヘシムヘシ

二、該部隊ノ任務ハ艦隊ヲ援助シ其要求ニ應シテ之ニ協同シ且奪取セル要塞ノ守備ニ任スルニ在リ

三、即時「カーデン」提督（英国地中海艦隊司令官）ト連絡シ其要求ヲ知ルト共ニ可及的之ニ應ス如ク努ムヘシ」

二月二十三日　陸軍卿發派遣部隊指揮官宛

「速ニ艦隊司令官ニ面接シ連合作戰ニ關スル協議ヲ遂ケ其結果ヲ報告スヘシ

特ニ要塞ヲ確保スル為陸軍部隊ノ上陸ヲ要スヘキヤ果シテ然ラハ幾何ノ兵力ヲ使用

五

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

セントスルヤヲ確ムヘシ」

翌二十四日陸軍卿ハ更ニ埃及軍司令官ニ對シ連合作戰指導上ニ關スル詳細ナル私見ヲ縷述シ特ニ海峽ノ強行突破ハ主トシテ海軍作戰ニ依ルヘク兵力約四萬ト判斷セラルル敵ニ對シテ僅少部隊ヲ以テ上陸ヲ敢行スルハ頗ル危險ナルヘシトノ意見ヲ強調シ且其最後ニ「但シ大ナル危險ナクハ既ニ艦砲射撃ニ依リ破壞又ハ制壓シタル敵ノ堡壘砲臺ヲ占領スルハ敢テ禁スルトコロニアラス」ト附言シ尚其他現在ノ狀況ニ關シテ種々照會的ノ言辭ヲ述ヘ其意見ヲ徵セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

翌二十四日陸軍卿ハ再度「バードウッド」中將ニ打電セリ

「艦隊ノ海峡通過ノ安全ヲ期シ得ルニ至ル迄貴官ハ其作戰ノ實行ヲ保留スベシ云々

二、但シ海軍側ヨリ援助ノ請求アル場合ニハ海岸ヨリ深ク進入セサル範圍ニ於テノ規模ノ作戰ニ出スルハ支障ナカラシム云々」

右ノ事實ニ鑑ルトキハ陸軍派遣部隊ノ使用ハ之ヲ艦隊指揮官ニ一任シ而カモ陸軍部隊ノ行動ニ關シテハ極メテ拘束的ニシテ且不適確ナル指示ヲ與ヘタルノミナラス陸海軍協同

六

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニ関シ中央統帥機関ノ間ニ尚尊明確ナル規準ヲ協定シアラサルヲ知ルヘキナリ特ニ此最後ノ事項ニ関シテハ左ニ述フル一事最ニ依リ最モ明瞭ニ裏書セラルヘシ

即チ二月二十日埃及軍司令官ハ陸軍卿ヨリ電報ニ接シタルヲ以テ地中海艦隊司令官ニ対シ陸軍部隊ノ協力ニ関シ所要ノ照會電報ヲ發セシ處寔ニ意外且不快ナル返信ヲ受ケタリ

其要旨左ノ如シ

「地中海艦隊司令官發　埃及軍司令官宛

本回ノ計畫（陸海軍ノ協同作戰ヲ指ス）ハ政府自ラ其任ニ當リ　予ハ單ニ其實行者タルノミ　從

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

テ陸軍部隊ニ對スル海軍側ノ要求ハ予
コリモ本國當局ヲ克ク之ヲ詳知セル筈
ナリ

三、予ノ任務ハ必要アル場合ヲ顧慮シ陸兵
一萬ヲ上陸セシムヘキ準備ヲ爲スニ在リ爾餘
ノ件ニ關シテハ何等訓令ヲモ受領シアラス

三、若シ此部隊ヲ派遣セラルルモノトセハ予ハ
リポリ半島南部ヲ占領スル目的ヲ以
テセド・エル・バールニ上陸セシメントス企圖ス

右ノ事象ニ依レハ陸海軍連合作戰ノ方針ヲ
確立セルニ方リ中央統帥部間ニ明確ナル
協定ヲ遂ケ一貫セル方針ニ基キ夫々現地

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニ在ル陸海軍指揮官ニ明確ナル指示ヲ與
ヘサリシ事實ヲ看取シ得ヘク從テ出先指
揮官ノ間ニ意思ノ疎通ヲ缺キ協定不圓
滑ヲ招徠スルニ至レル所以ヲ窺ヒ得ヘシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

要旨

二、出先ニ於ケル陸海軍指揮官ノ情況判断ニ抵格アリテ夫々相反スル意見ヲ具申セルモ中央統帥機関ニ於テハ之ニ對シテ根本的ノ検討ヲ遂クルコトナク從來ノ行懸リニ委シテ顧サリシ爲成功ノ可能性ナキ海軍ヲ主体トスル獨力攻撃ヲ敢行シ拾集スヘカラサル危機ヲ招クニ至レリ

三月四日最ニ陸軍卿ヨリ派遣部隊指揮官タルヲバードッツドレ中將ニ宛ル情況判断ノ照會ニ對シ返電アリ其要旨左ノ如シ

派遣軍指揮官殿　陸軍卿宛

一、地中海艦隊司令官ハ情況許セハ依然艦

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

隊獨力ヲ以テ海峡突破ヲ企図シアリ

二、此際飽ク迄海峡ノ強行突破ヲ企図スヘキヤ將又陸軍部隊ノ來着ヲ待ツヘキヤハ一ニ本國政府カ戰勝ヲ期待スル緊急ノ度ニ依ルヘキモノト思考ス 蓋シ埃及ヨリ來援セシムヘキ陸軍部隊ノ到著ハ三月十八日（海軍ノ強行突破予定期日）以前ニ期待シ得サルヲ以テナリ

三、海軍側ヨリ援助ヲ請求セラレタル場合ニ於テハ陸軍ノ作戰ハ御指示ノ如ク小規模ノ範圍ニ限定スルコトハ不可能ニシテ戰鬪ノ當初ヨリ隷下部隊ノ全力ヲ用フルノ要アルヘシ云々

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

更ニ三月五日「バードウッド」中將ハ陸軍卿ニ
對シ自己ノ判斷ニ基ク意見ヲ具申セリ其要
旨左ノ如シ

派遣部隊指揮官發　陸軍卿宛

「艦隊獨カヲ以テ海峽ヲ突破スルコトハ到底
不可能ナリ　云ヘ
殊ニ陸軍ヲ上陸セシムル爲ニハ天候ノ安定
スルコト（當時該方面ノ天候ハ概シテ險惡ナリキ）
絶對ニ必要ナリ　小部隊ヲ上陸セシムルハ
風波ノ爲艦隊トノ連絡ヲ斷タルル虞アル
ヲ以テ危險ナリ　要スルニ戰鬪ハ比較的長
時日ニ亘ルモノト判斷セラル」

然ルニ方海軍卿ハ最ニ地中艦隊司令官ヨリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

爾ラセルヲ艦隊ハ晴天十四日間ヲ得ハコマルモラシ
海ニ侵入シ得ヘシトノ報告ヲ確信シ從テ艦
隊ニ協力スヘキ陸軍兵力ハ現ニコマドロスニ在
ル小部隊（埃及ヨリ先遣セラレタル部隊ニシテ歩兵一旅団（四大隊）ナリ）ヲ以テ十分ナリ
ト判断セリ　サレハ三月四日海軍卿ハ陸軍
卿ニ對シ書面ヲ以テヲ艦隊ノ海峡突破ハ三月
十六日以後遠カラス成功スヘキヲ以テ既ニダーダ
ネルスニ方面ニ派遣セル陸兵四萬及佛軍師
團ハ同日頃迄ニコマドロスニ港ニ集結シ情
況ニ依リコガリポリニ半島ニ上陸セシムルカ或ハ
直接君府ニ派遣シ得ル如ク準備セラレ
度旨ト通報セリ
是ニ於テ陸軍卿ハ右コベードウッドニ中將ノ報

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

告並海軍卿ノ通報ニ基キ三月四日コベートドウッドレ中將ニ對シ左ノ要旨ノ電報ヲ發セリ

陸軍卿發　派遣隊指揮官宛

一、海軍側ノ判断ニ依レハ艦隊ハ二十日頃迄ニハ「マルモラ」海ニ侵入シ得ヘシト爲セリ

二、貴官ハ十八日頃迄ニ濠西軍團、佛軍師團及海兵師團ヲ「マドロス」ニ集結スヘシ

三、其目的ハ之ヲ以テ直接君府ニ上陸セシムル爲ニシテ「ガリポリ」半島ニ使用スルハ艦隊獨力突破ノ不成功ニ終リタル時ニ於テスルモノトス　艦隊ニ協力スヘキ陸軍部隊ハ現在「マドロス」ニ在ル旅團ノ一部ニテ可ナラ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ン半島ニ對スル大規模ノ作戰ハ後命スル迄中止スヘシ」

右ノ電報ニ接シタルコバードウッド中將ハ折返シテ陸軍卿ニ對シ左ノ意見ヲ强調具申セリ

一、派遣部隊指揮官發　陸軍卿宛

艦隊司令官ノ豫想ハ誇大ナリ、小官既ニ報告セル如ク陸軍ノ援助ナクシテ艦隊カ海峽ヲ突破シ得ヘシトハ斷シテ信スルコト能ハス云々

二、小官ハ半島ニ對シテ無謀ノ上陸ヲ敢テセントスルモノニアラス云々

三、假令艦隊ニシテ陸軍ノ援助ヲ藉ラス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海峡ヲ突破シ得タリトスルモ艦砲威力ノ及ハサル敵移動砲ノ射撃ヲ避ケテ輸送船ヲ君府ニ進ムルコトハ不可能ナリ

小官カ半島ニ對シテ大部隊ヲ上陸セシムルノ緊要ナルヲ説クハ此障碍ヲ除去センカ爲ニ外ナラス凸

右ノ如ク出先陸軍指揮官ヨリ再三ニ亙リ艦隊獨カヲ以テスル海峡突破ノ可能性ナキヨトヲ强硬ニ意見具申セルニ拘ハラス陸軍當局ハ是ヲ輕々ニ看過シ敢テ海軍當局ノ反省ヲ促スノ熱意ニ乏シク有力ナル陸軍部隊カ今ヤ近ク作戰場裡ニ到達セントスル時機ナルニモ拘ハラス最後ノ瞬間迄是カ使

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

用ヲ控制セリ

果セル哉 三月十八日多大ノ望ヲ繫持セル艦隊ノ總攻擊ハ無慘ニモ大ナル失敗ニ歸シ戰艦三隻ヲ失ヒ他ノ三隻ニ多大ノ損害ヲ蒙リ徒ラニ敗戰ノ汚名ヲ天下ニ暴露セルノミナラス次テ四月末ニ決行セル陸海軍ノ大規模ナル上陸作戰失敗ノ一大原因ヲ貽スニ至レリ是ヲ他ノ一面ヨリ觀察スルニ從來久シク醞釀セラレタル先入主ハ一朝ニシテ改變スルノ困難ナルト海軍卿ヲチャーチルノ人物カ國内當事者ニ重キヲ成シタル爲大勢ノ赴クトコロ自然ニ如上ノ經過ヲ推移シタルモノト謂フヘシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三期　陸軍ヲ主體トスル陸海連合作戰

要旨

陸軍總司令官（英仏聯合軍總指揮官）トシテ地位名望共ニ高キ「ハミルトン」將軍ヲ任命セルコトハ參加陸軍兵力ノ增大セルコトト相俟テ陸海連合作戰ニ於ケル陸軍側ノ地位ヲ向上スルニ與テ力アリシモ一歩進テ連合作戰ノ主体ヲ陸軍ニ置クベキコトニ関シ難然タル方針ヲ樹立スルニ及テ始メテ所謂上陸作戰ノ本質ヲ實現シ得ルニ至レリ

廟議ハ既ニ陸海連合作戰ノ方針ヲ採ルニ決シ之ニ基ク陸軍部隊ノ準備モ亦着々進捗シツツアリシカ艦隊司令官及海軍當局ハ尚依然其独自ノ判断ニ基キ從來ノ計畫ヲ遂行シ多大ノ失敗ニ終レルコトハ既ニ述ベタル如シ而シテ右ノ艦隊独力攻撃ノ決行セラルルニ先タチ陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

總司令官「ハミルトン」將軍ノ任命ヲ見タリ　蓋シ參加
ノ力ハ豪西軍團ノ外更ニ仏軍一師團ヲ增加スルニ至リ情
況ニ依リ更ニ兵力ヲ增加セントスル企圖アリシヲ以テ
ナリ
總司令官任命ノ件ニ關シ三月四日海軍御ハ陸軍御ニ対
シ書面ヲ以テ左ノ意見ヲ開陳セリ
「司令官タルヘキ人物ハ地位高ク識見卓拔ナラサルヘ
カラス　陸軍側ニ於テハ「ハミルトン」將軍カ其識ニ上
レリト云聞ス　海軍側ノ意見ニ於テモ彼ニ優ル人物
無カルヘシト思考シアリ」
三月十二日陸軍御ハ「ハミルトン」將軍ヲ佛國戰場ヨリ招
致シ地中海遠征軍司令官ニ公式任命セリ
而シテ右總司令官ノ任命ハ能ク陸軍側ノ地位ヲ向上ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ルモノアリタリト雖仕命ノ時機ハ既ニ遅キニ失シタリ
即チ海軍側ハ地中海艦隊ノ行動ヲ律スヘキ重大ナル時
機カ既ニ数日ノ間ニ迫リシヲ以テ総司令官ノ赴任ヲ一
刻モ速ナラシムトヲ熱望シ将軍ハ一部ノ幕僚ヲ伴ヒ翌
十三日快速巡洋艦ニテ戦場ニ向ヘリ「ハミルトン」将軍ハ
出征ノ途ニ上ルヤ其蘊蓄アル卓識ヲ以テ陸軍御ノ創令
一九一二年調製ノ上軍要覧、戦前ノ調査ニ係ル「ダーダネ
ルス」ノ防禦、作戦地ノ地図等ノ研究ニツツ二月十七日
午後「ダネドス」港ニ到着シ艦隊旗艦上ニ於テ艦隊司令
官並陸軍指揮官「クロード」将軍ト会見シ快諾ヲ同ケ
タリ
然ルトモ「ハミルトン」将軍ハ近ク実行セラレントスル艦
隊ノ獨力作戦ニ関シテハ自己ノ意見ヲ開陳スヘキ何等

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ資料ナク又之ヲ検討ヲ試ムヘキ時日ノ余裕ナキヲ如何セン 唯艦隊司令官ノ翌十八日攻撃ニ関スル事項ヲ聴取スルニ止マルルハ亦已ムヲ得サル所ナラン

而シテ「ハミルトン」陸軍ハ翌十八日艦隊ノ攻撃要旨聞戦場一般ノ情況ヲ視察シテ任務ノ頗ル困難ナルヲ感セシカ特ニ此日ニ於ケル艦隊ノ惨憺タル敗戦ヲ目撃スルニ及ヒ海峡突破ノ目的ハ到底海軍独力ヲ以テ達成シ得サルヲ痛感シ陸軍卿ニ対シテ左ノ要旨ノ報告ヲ致セリ

「陸軍ヲシテ爾後ノ作戦ニ快力セシメント欲セハ幸ロ断然陸軍ヲ以テ作戦ノ主体ト為シ艦隊ノ進路ヲ打開スルノ必要アリ」

之ニ対シテ陸軍卿ハ直ニ「ハミルトン」陸軍ニ対シテ左ノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

迅電ヲ發セリ

能ク迅海峡突破ヲ敢行セサルヘカラス、ト、次ハ貴下ノ熟知セラルル處ナリ之カ為大規模ノ陸軍作戰ヲ必要トセハ萬難ヲ排シテ之ヲ敢行スヘシ

又他方艦隊司令官モ亦從來ノ所懷ヲ一変シ十二日旗艦上ニ催サレタル陸海連合會議ノ席上ニ於テ陸軍援助ナクハ艦隊ノ海峡突破ハ不可能ナリト述ヘ席上ノ海軍首脳者中一人ノ異議ヲ挿ムモノナカリキ

斯テ本國ニ於テモ亦軍令部參謀會議ノ結果出先陸海軍指揮官ノ意見ニ敢テ異ニ從來ノ思想ヲ根本ヨリ變更シ大規模ナル陸海軍連合作戰ヲ敢行スルニ決シ艦隊ハ陸軍ノ上陸作戰ニ協力スヘキ趣旨ニ變更セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

覚書

一、陸海連合作戦ノ発端ニ方リテハ陸海中央統帥機関協定ノ下ニ通確ナル方針ヲ確定スルハ勿論出先陸海軍指揮官ニ對スル任務附與ニ関然スルトコロナカランヲ以テ両軍指揮官ノ意思疎通協定ノ円滑ヲ障碍ナカラシムルヲ要ス

二、出先陸海軍指揮官ノ情況判断ニ行格アルトキハ中央統帥機関ニ於テ十分之カ検討ヲ盡シ両者ノ意見一致スル所ニ基キ夫々陸海軍指揮官ニ聯絡ニ努ヒル任務ヲ指示シ協同作戦遂行上ノ規範準繩ヲ明確ナラシムルヲ要ス

三、海軍ヲ主体トスル作戦ニ一部ノ陸軍ヲ協力セシメ又ハ陸軍ノ大部隊ヲ之ニ参與セシムルニ方リテハ作戦

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

主体ノ轉換時機ヲ明確ナラシメ且之カ轉移ニ関シテハ機ヲ失セス陸海軍兩統帥部ヨリ先ツ指揮官ニ判然タル指示ヲ與ヘ徒ラニ從來ノ情勢ニ依リ自然ノ推移ニ放任セサルコト肝要ナリ

四、連合作戰ニ於ケル指揮官ノ地位聲望ハ作戰遂行上ノ円滑ヲ期スル為機微ナル関係ヲ有ス外國軍ヲモ併セ指揮スル場合ニ於テハ特ニ然リ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp